

心理学部

学校推薦型選抜(一般) 小論文

次の文章を読み、設問に答えなさい。

東京パラリンピックの日本選手団は視覚障害選手を支える伴走者やコーラー、タッパーら競技パートナーやサポートスタッフも精彩を放つ。「道案内」だけでなく確かな指示や激励を送り、陸上や競泳、トライアスロンで快挙に貢献。選手と一緒にメダルを授与される場合もあり、障害者と健常者が共同作業で目的を達成する姿は大会が掲げる「共生」を象徴する。

陸上男子5000メートルで銀メダルに輝いた全盲の唐沢剣也（群馬県社会福祉事業団）は「戦友」と呼ぶ伴走者2人と駆け抜けた。箱根駅伝などで活躍した小林光二さんと、茂木洋晃さん。唐沢は「絆」と呼ばれるガイドロープを交代でつないだ両ランナーに感謝し「この3人で銀メダルを取れてうれしい」と誇った。

競泳で全盲の種目では、ゴールやターンのタイミングを棒でたたいて伝える「タッパー」の存在が不可欠だ。タッチ差が勝敗を分けることもあり、コンビネーションの習熟が重要だ。男子400メートル自由形で銀メダルの富田宇宙（日体大大学院）をたたいた寺西真人さんは「あうんの呼吸。選手との信頼関係は欠かせない」と説明する。

競技や種目によっては、パートナーもメダルを下げた表彰台に立つ。

トライアスロンの視覚障害種目ではスイム、バイク、ランを通じて同性のガイド1人が付く。男子で銅メダルを獲得した米岡聡（三井住友海上）のガイドは3年後のパリ五輪を目指す健常のトップ選手、椿浩平さんが務めた。レース分析や戦略的なアドバイスも的確で、米岡は「どういう走りをするかを判断する重要な情報源」と感謝。椿さんは「決して順調な道ではなく、大変なこともあった。2人でやってきて最高の大会になった」と感激の面持ちだった。

陸上走り幅跳びでは「コーラー」が踏み切り位置に立ち、選手に方向を指示する。全盲の女子選手、高田千明（ほけんの窓口）を支える大森盛一さんは無観客の国立競技場に大声と手拍子を響かせた。これを頼りに暗闇の中を走り、踏み切った高田は「大森さんがいないと競技自体が成り立たない」と話した。

ボートのかじ付きフォアのコックスは健常者も担当できる。日本のこぎ手は男女2人ずつで、視覚障害者、身体障害者の割合は半々だ。年齢、性別、障害が異なる4人を、健常者の立田寛之が司令塔役としてまとめた。

二九日に競技が始まった5人制サッカーは、晴眼または弱視のGKが4人の視覚障害選手に後方から指示を送る。初出場の日本はフランスとの初戦を制した。佐藤大介は「すごくいい守備で（相手を）中に入らせなかった」と選手を称賛し、仲間と一緒に手にできるメダルを狙う。

【出典】愛媛新聞オンライン『「大型サイド」パラリンピックの競技パートナー 精彩放つ伴走者、ガイドら 視覚障害選手の活躍支え』（二〇二二年八月三〇日）

問一 本文における「共生」とはどういうことを意味するのか二〇〇字以内で述べなさい。

問二 サポートを求めている人々との共生を目指すために、あなたならばどのようにするか、自分の考えを六〇〇字以内で述べなさい。